

偶でわにのな 休止小

「成人式」まだ未成熟

結果的には容疑不十分で不起訴となったものの、この手術で日本の移植医療は大きく停滞したとされる。

◇ 「和田移植」によって医学界と医師に対する不信感が高まりました。日本の移植医療には何十年もの失われた時間ができてしまいました」

「患者さんにとって、仕事をしたり、家族と一緒に過ごしたりとかけがえのない十年余だったはず。医療は、延命するだけでなく、その中身をどれだけいいものにしていくか、」

「患者さんにとって、仕事をしたり、家族と一緒に過ごしたりとかけがえのない十年余だったはず。医療は、延命するだけでなく、その中身をどれだけいいものにしていくか、」

この20年で、脳死からの臓器提供者は計4500人を超えた。一方で、心臓、肺、肝臓、腎臓、脾臓、小腸の移植を希望し

摘出したり、患者に移植したりする「心臓外科医」ではなく「心臓内科医」。患者の体全体の循環動態を見ながら薬物療法などで治療する。

再開1例目の心臓移植 重要性を感じるようにな

「提供したくない」という人の思いはもちろん尊重しながら、「臓器を提供して役にたちたい」という人の意思を生かせるよう、医療機関の態勢などが一層充実すればと思う。

今年臓器移植法の成立・施行から20年。成立は1997年6月、施行は10月だった。同法によって脳死からの臓器提供が可能となり、施行から約1年4カ月後の99年2月に1例目の提供があった。高知赤十字病院で脳死判定を受けた40代の女性から心臓、肝臓、腎臓、それに眼球が6人に移植された。心臓は大阪大病院(吹田市)で40代の男性に移植された。

日本の心臓移植は68年、札幌医大の和田寿郎教授(故人)が行ったのが最初だ。ところが脳死判定の妥当性への疑問が浮上し、和田教授は後に殺人容疑で告発される。

臓器移植法20年



臓器移植法について資料を見ながら話す児玉和久さん—大阪市西区で、貝塚太一撮影

【関野正】

「提供したくない」という人の思いはもろろん尊重しながら、「臓器を提供して役にたちたい」という人の意思を生かせるよう、医療機関の態勢などが一層充実すればと思う。

運転免許証や健康保険証の裏面に臓器提供の意思表示欄があることを多くの人がご存じだろう。「提供したくない」という人の思いはもろろん尊重しながら、「臓器を提供して役にたちたい」という人の意思を生かせるよう、医療機関の態勢などが一層充実すればと思う。